

慶長五年庚子十一月二十八日、生于駿河府中、小名五郎太。

光友

寛永二年乙丑七月二十九日、生于尾張、小名五郎太。

綱誠

承應元年壬辰八月二日生、小名五郎太。

〔鶯峯文集七十七〕西風淚露上

先考信勝林以天正十一年癸未八月生、歴六十一年、汝信春林以寛永二十年癸未八月生焉、先考初得孫

特喜、其同干支、生三日、而先考以其幼名又三郎名之。

〔天保武鑑二〕植村

榮政新六郎出羽守 後改家存

依台命家康徳川家之御一字拜領、傳子孫用之。

家次

家政

家貞

家言略下

〔浚明院殿御實紀附録二〕竹本次左衛門長景は、御氣色にかなひたる小納戸なりしが、病もて死せしとき、其ゆかりある女房の御かたはらに候したるに、次左衛門が子は、直に父の名に改めよと仰有りしかば、とみにつたへしに、忌はつる日、次左衛門と改めけり。

〔閑散餘録下〕徂徠先生、俗名ヲ總右衛門ト稱セルコトハ、曾祖父ノ名ヲ襲ヘルナリ。

〔古事記傳二〕嵯峨天皇の御子たちの御名は、略皇男のは、みな良字を下におかる、其中に源朝

臣と云姓を賜へるは、みな皇子のは一字、皇女のは某姫と云、次に淳和天皇の御子たちのも同じさまにて、此は多く上に恒字をおかれ、仁明天皇の御子たちのは、下に常字をおかれ、文徳のは、上に惟字をおかれ、清和のは、上に貞字、陽成のは、上に元字、光孝のは、上に是字、醍醐のは、下に明字、村

兄弟名用同字